

松川町地域産業推進協議会 第5回企画委員会 会議録

日時：平成24年7月26日（木）

午後6時30分～8時30分

会場：松川町役場 2階 大会議室

第5回目の企画委員会を開催。

今回は、はじめて部会をシャッフルし、A・B・C部会として再編成。6月26日開催の第3回地域産業推進協議会にて行った第1回目の企画委員会の提案に基づき各部会のテーマを限定し、ワークショップを行いました。

A部会は、「統一看板の設置」

B部会は、「ブランドの認証化」

C部会は、「ソフト面での支援(人づくり)」

各部会から出された意見等については、次頁以降へ記載します。

A部会『統一看板の設置』

法

- ・統一感を持たせる為の方策。景観規制条例が必要。
- ・届出制による規制（自由度がなくなってしまう。・・・農家、企業のアピール等）
規制の内容・・・①規制条例②使用素材③キャラクター④デザイン
- ・すべて規制するのは無理でないか。

ハードなもの

公共

- ・木曾にある木の看板。（素材の統一）
- ・LED街灯の統一。
- ・ワンポイントの共通点。（町章、キャラクター、くだもの等）
- ・町外者向けに公共施設の案内看板が少ない。
- ・まずは公共の看板から。（すべての看板を統一するには時間がかかる。手始めに公共施設の案内看板から設置し、賛同した住民から取り組んでいく。）

民間

- ・各農園看板は人より目立ちたい。
- ・看板コンテストを行なったらどうか。（アルルの季節感ある写真看板は通行のたびに楽しみである。）

共通

- ・掲示板があればいいのではないか。（誰でも書きこみができる、情報が貼れる）

ソフトなもの

- ・・・・誘導していく先（景観・イベント・場所）
- ・イメージ（松川町全体）が看板になれば一番いい。
- ・観光スポットのネットワーク化・・・（観光スポットを結び付けていく）
ごぼとん井情報（ネットワーク）
看板やイベントのネットワーク化
オートキャンプ場（清流苑、青年の家）
キャンプ場（区画をつくり、利用の規則を守らせる。管理者）
- ・イベント・・・ギネスブック的なイベントの企画（商工会青年部企画 流しソーメン）
- ・観光客の周遊・・・観光客を動かす。
“大人バス”【おとバス】フルーツバスの夜版（飲み歩き、飲食停留）
青年の家の活用・・・少人数の宿泊客の食事等。（少人数でも安心して泊まれる対応検討）

B部会『ブランドの認証化』

松川町ブランドの認証化の大目的は農商工連携であり、本日話し合いをすることは大目的を達成するための手段の一つと言う認識のもと話し合いが行われた。

また、工業製品は認証化しやすいが農産物は難しい。傷みや味などクレームの受け付けが全て町となる。どうしたら農産物もブランド化できるか検討をした。

【基本概念】

認証化されているものをもらうことはうれしいし、送る方も送りやすい。

【何を認証化するか】

<今ある商品から認証化>

- ・食べ物の中でも果物が主になると思うが、選果場が統一されたこともあり松川産を選別することが難しい。他市町村産でも「松川」の箱に入ってしまうと松川産になってしまうので気を付けなければならない。
- ・現在、各農園が既にブランドとなっていて、遠方からもお目当ての農園に果物狩りや贈答品を求めて来ている。町で認定することに賛同者を募ることが難しい。
- ・果物の他にもごぼとん丼の材料や野菜等でも本当の松川産とわかる食べ物が良い。

<新しく商品を作る>

- ・アレンジが可能な加工品が良い。
- ・主婦目線から見た原材料候補は「くるみ」、「山椒」、「桜の塩漬け」、「大豆」、「豆乳」。遊休農地対策としても効果が期待できる。
- ・全世界共通のお土産としてあげられるものが「チョコレート」であり、松川町も「くるみ」を使ったチョコレートを目指したらどうか。くるみはチョコレートに最も合う。
- ・スーパー等でも一人暮らし用のレトルトパックが人気があるとのこと。食べるのに手間暇がかかる加工品よりも、高齢者向けや一人暮らし用保存食として「松川詰め合わせセット」としたレトルトパックも良い。

【誰がどのようにブランド認証を行うか～ブランドの定義～】

- ・何を認証化するにしても規格を考える必要があるので、審査委員会を立ち上げ専門家の意見を聞くべき。
- ・認証されたラベルは強制的に貼らせるのではなく、申請して貼りたい人が貼るようにすればよい。また、そのラベルを貼るのは有償なのか無償なのかも考えるべき。
- ・松川町産と明記するには①生産場所が松川町②加工場所が松川町③育てた場所、原材料が松川町産が考えられる。加工工場を建設するのは色々な面でハードルが高いので、ロッテなど大手製造会社と提携して製造はお任せし原材料提供と販売を松川町が独占契約させてもらう。

- ・ I S Oなどでは違う種類の消毒がかかる可能性があるだけでも認可がおりないので、対象が食べ物だとすると育てる環境対策が必要。
- ・ ブランド認証と合わせて生産者がわかる Qアールコードを付ける。

C部会『ソフト面での支援（人づくり）』

- ・農業や商業がどんな課題を持っているのか。キーとなる。
- ・果樹を栽培して、工業に従事している人が買う。無関係ではない。町民としてどうしたいのか。例えば、清流を守ろうというテーマを持って、清流苑近くを整備する。それが波及して皆で清流を守ろうとなれば良い。
- ・上村は資源があって良いとはいいますが、どれだけの人が来てどれだけの経済効果があるのか。それに比べ松川はインターもあり、恵まれている。役所の利点を生かしたマーケティングを行って、強み（果樹）はもっとアピールすべき。
- ・水にこだわっているため、松川の水道水は少し塩素が強いと思う。
- ・片桐松川の桜を整備し、売りにしたらどうか。
- ・目的は産業を活性化させること。具体的にしていけないと。農業の効率UP生産性UPにどういう課題があるのか。
- ・町の方向性はどうか。町長からトップダウンなのか。ある程度具体的なテーマでない駄目。豊丘でも六次産業の会議を行っているそうだが、具体的な取り組みを会議している。
- ・自薦他薦問わず、できる人（パソコンが強かったり、電子系が詳しい等）をデータベース化して、町の中で解決できたら良い。
- ・長野県に専門家登録制度がある。テーマが見えないと難しい。
- ・マーくんカード事業を深くできれば面白いと思う。
- ・自分たちで問題意識を持たないと。下から積上げていくようなシステムづくり。やる気のある人はいる。
- ・人材のデータベース化。見える化する。掲示板のような形で作り、書き込む。
- ・職業との区別は難しい。
- ・公民館ですでに登録制として活用している。ボランティアで活動。経費は実費。
- ・意外と困っていることは身近にある。人材を活用できれば良いアイデアは出る。
- ・窓口を「みらい」でできると良い。